

1. 調査報告概要表

作成日 2008年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070501083
法人名	NPO法人ひまわりの家
事業所名	グループホームすまいる
所在地 (電話番号)	群馬県 太田市 新井町 544-1 (電話) 0276-45-5737
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市 大友町2-29-5 コミュニ100-1-B
訪問調査日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(平成20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
	常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input checked="" type="radio"/> 200,000 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有/ <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4			
要介護5	0名	要支援2			
年齢	平均 77歳	最低 65歳	最高 89歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内医院 永倉歯科医院 介護老人保険施設藤阿久光荘
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは市街地の中にあり、商店街がすぐ近くにある。管理者、職員は立地条件を活用し利用者の社会参加を積極的にケアに取り入れている。利用者一人ひとりに役割を持ってもらい、職員と一緒に家族のように生活してもらっている。利用者は身体状況に応じた役割をこなし役割そのものが身体の機能低下を防いでいる。地域の中で生活すること、地域との関係を築きあげる事に努力をしている。管理者、職員は利用者とともにスーパーやレストラン、住民センター、美容院等出かけ、地域の人達と交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型としての理念は職員会議で話し合い、全員で理念を検討し新しい理念を作り上げている。職員を育てる取り組みでは研修に参加しているが職員の希望する研修に参加出来るようなシステムがあればより以上の効果があるのではないかと考えられる。介護計画の見直しではモニタリングはされているが、毎月は行われてはいない。食事を楽しむ事は、職員は利用者と一緒に食事を摂っていない。鍵をかけないケアは解錠の努力がなされている。災害対策は年2回の訓練が行われている。
重点項目②	管理者は職員とともに評価を行い、職員の意見を聞きながら管理者が作成をした。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	事業所の状況説明を行ったり参加者から意見や苦情など聞き出す努力を行っている。出された意見に対して職員間で話し合を行っている。職員は担当制がとられ家族との信頼関係が築きやすいよう配慮されている。運営推進会議で住民センターへの参加が話し合われ実現している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族は運営推進会議に参加しており意見や要望など施設は話しやすい雰囲気を作り、汲み取りを行っている。玄関には苦情箱も設置されている。また職員は担当制がとられていて、家族も意見が云いやすいよう配慮されている。運営推進会議に出された意見は職員会議に取り上げられ、職員間で共有されている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者・職員は地域の人達に積極的に施設を理解してもらうために声をかけている。住民センターへの参加なども地域の人達の理解を得て実現できた。また地域の行事などにも参加している。散歩や買い物など地域のお店を利用し声掛けを行っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員等で話し合い、新しい理念を作り上げている。その理念には地域の一員としての利用者の立場が謳われている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は会議室の壁に掲げられている。職員は理念を日々眼にしており、迷いなどあるときはそこに立ち返り職員間で共有されている。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者・職員は地域との関係を大切にしている。常に近隣の人には声をかけ続けてきた。今では住民センターの利用など地域の人達の協力が得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義を理解しており、今回の評価は職員に聞き取りを行い管理者とケアマネジャーが作成をしている。職員は意見を言う機会があり、意見は反映されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度開催されている。市の職員、区長、家族の代表、保育園園長、理事長、管理者、ケアマネジャーが参加している。施設側より活動報告などが議題として上げられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理事、またケアマネジャーは市に出向いた時に担当の人との情報の交換を行っている。利用者の介護更新申請や報告、運営推進会議の依頼などで市に出向いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には施設の生活状況など担当者が報告をしている。健康に変化が生じた時には電話で家族に報告を行っている。職員は連絡帳を通して情報を共有している。請求書の郵送の中に預かり金(自己管理1人)の購入明細など同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は代表者が運営推進会議に参加しており、意見を言える機会が用意されている。また苦情箱が設置されている。担当者は家族より意見を汲み取る努力をしている。担当制がとられており、家族が意見を言い易いように担当者は配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動は少ないように努力している。担当制がとられているが仕事に慣れてから利用者の担当を決めている。新しい職員は利用者、家族の人にも紹介を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には理事長がその人に合った研修を選び参加してもらっている。参加者は職員会議で報告をして職員間で研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。職員はレベルアップ研修に参加している。職員は地域のグループホームに見学等行い、情報交換など自主的に行ったりもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず家族と一緒に見学をしてもらい納得をしてから利用してもらうようにしている。利用者との会話やレクリエーションなどを通して不安感を取り除くように支援している。職員も飲み物などを勧め緊張を解きながら馴染みの関係を築き納得してもらい入居に結びつけるよう勤めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員は日々の生活の中で会話を通して利用者から人生の智恵を教えてもらっている。また行事に使用する飾りの意味なども教えてもらい、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・職員は生活の中で会話を通して一人ひとりの希望、意向など汲み取る努力を行っている。利用者の話をゆっくり聞くことで利用者に話をしやすいように支援し観察している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が決められており、担当者は本人・家族の意向を聞いている。管理者、ケアマネジャー、がその後話し合い、ケアマネジャーが作成している。家族に計画の了解を確認し、本人・家族・職員が共有できる計画作成がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは経過記録などにより随時の見直しと6ヶ月の見直しがされている。3ヶ月のモニタリングの記録も作成されている。	○	3ヶ月ごとのモニタリングがされている。状況に合わせた見直しが利用者にとってより必要なサービス計画に結びつくので、1ヶ月ごとのモニタリングを行い、より適切な見直しになることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は利用者の通院支援、買い物支援、外食の支援など行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医となっている。距離的なこと等の事情により家族が付き添えない場合など了解を得て協力病院に変更をお願いする事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設の方針として入所後に重度化したときには家族と相談をして救急の場合は、救急車対応で病院へ入院となる。入院しても1ヶ月は居室は確保されている。入所時にその説明はされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員は言葉使いに気を配っている。親しみのある言葉であって他の人に聞かれても尊厳を損ねない言葉使いをしている。書類などは目に着かない場所に保管されている。居室もガラス窓からそのまま見えない工夫がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決められている。利用者のペースが大切にされている。決められた時間以外でも対応が出来る。飲み物などは選択が出来、利用者の好きなものが選べるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立には利用者の希望が取り入れられており、買い物の時点から食べる楽しみが支援されている。利用者は食材選び、準備、配膳、下膳と参加して食事を楽しんでいる。	○	職員は利用者とは一緒に食事を取っていない。お弁当を持参して交代で食事をし、利用者の食事の見守り、介助など行っている。利用者と一緒に食事をする事により、味付、硬さ、おいしさなど声掛けが生きてくるので、職員が1人でも一緒に食べる検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が週4日あり利用者は週2回の入浴となっている。月、火、木、金、が入浴日。眠れない人や水虫の人には足浴も行っている。	○	個室となっている。入浴を拒否した人には申し送り等で代替の入浴日に入ってもらっている。利用者は入浴の曜日や回数が決められているので、希望の時に入れる工夫をお願いしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来る事をお願いして役割を持ってもらう支援をしている。利用者には花の水やり、手入れ、果実の木の手入れ、洗濯物干しやたたみ、テーブル拭きなどの役割がある。また楽しみ、気晴らしとして外食、買い物、散歩などが支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良いときは外気に触れられる機会を持っている。散歩、買い物、利用者の自宅訪問、外食など支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は時間を決め施錠されている。家族からも立地条件もあり国道に面しているので施錠して欲しいとの意見が出ている。	○	玄関の鍵はチェーンで午前10時から午後3時まで閉められている。利用者は自分では鍵を開けたり閉めたりが出来ないため、利用者の立場での話し合いを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行っている。昼の訓練と夜の訓練を交互に行い、利用者の安全確保の方法を身につけている。近隣との協力関係が築かれつつあり協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録がとられており、職員は利用者の健康状態等把握をしている。水分についても好きなものを飲んでもらい水分の確保をしている。夜間に水分の必要人にはペットボトルでベッド脇に用意して水分補給を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関までの道路脇には花が飾られている。玄関には鉢もの、季節の活花、苦情箱など置かれている。共有スペースにはテーブル、椅子、テレビ等がある。対面式のキッチンには配膳、下膳がしやすい工夫がされている。キッチンからは食材の香りが漂ってくる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設からベッドは貸し出しとなっている。2重ガラスになっていて温度、騒音など調節がされている。室内は個人の個性が出ている。カーペット、椅子、テーブル、箆笥、洋服がけ、人形、作品、など飾られている。使い慣れたものが持ち込まれ居心地良く過ごせる支援がされている。		